

# 指定機関通信

## 九州地区で競技会と連絡会を開催

### 2部門で55人が熱戦

第54回九州・沖縄地区溶接技術競技会が7月7日、熊本県産業技術センター（熊本市）



競技会では55人が熱戦

り広げた。

競技課題は全国大会に準じて薄板（立向）と中板（横向）の溶接を45分間で行う。

2022年度に被覆アークで全国大会優勝を果たした小林和樹さん（高田工業所・福岡）は、半自動溶接の部で

参加。「電流調整に時間がかかり十分にビードを磨けなかった」としつつも「大きなミスをせず溶接できた」と一定の手応えがあった



連絡会の様子

様子だ。「競技会への参加は今回が最後」と語る小林さんだが、事前練習で溶接のやり方を大きく変えたという。「臆せず新しい方法に挑戦した。後輩を指導するときの引き出しが増やせた」と笑顔を見せた。

残せば九州マイスターや日溶協マイスターになれる。これらを目指すきっかけにもしてほしい」と述べた。山口富子審査委員長は「減点に注意してレベルの高い作品を仕上げてください」とエールを送った。

被覆アークの部に出場した久保航さん（エムイーシーテクノ・福岡）は「薄板の溶接中、瞬間的に電圧が上がった。慌ててアークを止めてしまった。邪魔板の近くだったので上手く修正できなかった。悔しいが、次に生かしたい」と前を向いた。

開会式では、主催者挨拶として九州地区溶接協会連絡会の碓山裕和会長が「雑念を離れて練習の成果を発揮してほしい。良い成績を